



年頭所感

院長 柿木 滋夫



新年あけましておめでとうございます。昨年は初雪が遅く暖かい冬となると思いきや年末年始に最強の寒波に日本全体が包まれ記録的な寒さとなりました。地球規模では温暖化の進行や自然災害などが繰り返されておりますが、全体としては何となく帳尻が合うようになっているのだらうと思います。

さて、昨年は何と言っても9月6日に起きた北海道胆振東部地震があります。今なお復旧・復興途中であり災害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。北海道全体がブラックアウトになるという想定外のことが発生し、当院においても早朝より職員が集まり今後の対応について検討しました。その結果、患者様におかけするご不便を何とか最小限に止め、大事に至らずに乗り越えることができました。今回のことを踏まえ事業継続計画（BCP）を作っておくことが大切と考えております。

昨年の当院の出来事を振り返りますと、4月より産婦人科が再開され7月には暫くぶりのベビーが誕生しました。今後も安心安全なお産ができるように努めてまいります。また例年7月に開催される潮祭りの練り込みには、小樽協会病院として初めて200名を超える参加者があり、更に「マルちゃん特別賞」を頂くことができました。多くの市民の皆様のご支持があつての事と思ひ大変うれしく思うのと同時に、当院職員のパワーを感じた次第です。本年は小樽協会病院開設95年となります。100周年へ向けて更なる高みを目指していきたいものです。

今年は「亥年」です。亥の季節は冬と言われており、春の芽吹きまでじっとエネルギーを内に込めている状態を指しています。個人は、知識を増やす、精神を育む、病院は、人材育成や設備投資、財務基盤を固めるなど、内部の充実を心がけるとよいとされていますのでそのような年にしたいと考えております。

最後になりますが、インフルエンザなどの感染症が流行していますが身体に気を付け今年が皆様にとって良い年となることを願って新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

事務部長 下山 達也



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。また、各関係機関、連携医療機関及びお取引業者様におかれましては日頃より小樽協会病院へのご理解とご協力を頂き、心より感謝致します。

昨年は7月より分娩を再開し無事に39名の新生児を迎える事が出来ました。今年もより一層後志圏域の一助になるよう精進いたします。また、この2年間は小樽協会病院がこの地域でより一層求められる基盤作りを行ってきました。今年からは更に質にこだわり患者様はもとよりご家族の方々にも納得いただけるような医療を提供していきたいと考えております。

その為には、小樽市内を中心とした医療機関の連携を強くしなくてはならないと感じています。循環器・呼吸器科を柱とした急性期医療、産科が加わり出産～小児まで一貫して対応、医療・介護のシームレスな連携の地域包括ケア病棟の運営を滞りなく行っていきます。私も小樽協会病院はこの高齢化社会と少子化対策の一翼を担えるよう地域のため、そして地域住民から必要とされる病院を目指し職員一同取り組んで参ります。

本年もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

看護部長 川畑いづみ



新年あけましておめでとうございます。

また、平成30年北海道胆振東部地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年は念願でした地域周産期センターを再開いたしました。関係する多くの皆様のご支援とご協力があったのことに感謝申し上げます。看護部では、北海道助産師出向支援事業により、札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル、および旭川医科大学病院から助産師の出向をいただき、多大なご支援をいただきました。

また、小樽市及び北後志地区の母子保健を推進するため、産後ケアの取り組みを強化することができました。

そして、看護部として今年一年大切にしたいことは、第1に安全で安心できる医療の提供、人々の尊厳を重視した看護とチーム医療の推進です。さらに、看護職個々が高度医療を支える専門性を高めること、「暮らし」というフィールドに立ち、住民の皆様が安心して住み慣れた地域で暮らせるよう行動してまいります。

今年も、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

皆様にとって良き年でありますよう祈念申し上げます。

ふれあい健康教室が開催されました



患者様向けの健康教室を企画実施して第 11 回目となりました今回は、形成外科部長 皆川知宏先生が「がん手術後の腕、脚のむくみ」、手術後のリンパ浮腫の治療について症例を交えて講演を行いました。まずはリンパ浮腫の基本治療の複合的理学療法についてスキンケア、リンパドレナージ(マッサージ)、圧迫療法、運動療法の4項目について説明し、それでも良くならない場合には、流れなくなったリンパ液を流すためにリンパ管と静脈につなぐ「リンパ管静脈バイパス」の実際と手術内容を紹介しました。0.6mm のリンパ管を静脈につなぐ手技には会場からも驚きの声が上がっていました。続いてリハビリテーション科の坂昌憲主任よりリンパ浮腫のリハビリ内容の実際について紹介されました。

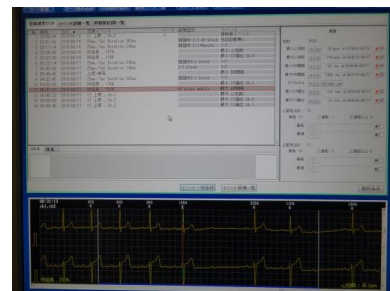
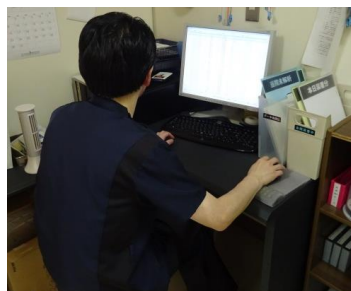
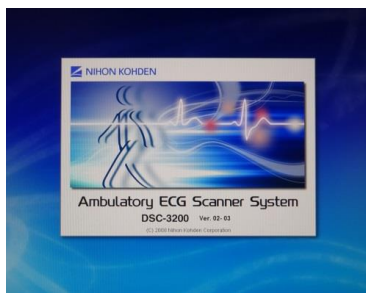
は、流れなくなったリンパ液を流すためにリンパ管と静脈につなぐ「リンパ管静脈バイパス」の実際と手術内容を紹介しました。0.6mm のリンパ管を静脈につなぐ手技には会場からも驚きの声が上がっていました。続いてリハビリテーション科の坂昌憲主任よりリンパ浮腫のリハビリ内容の実際について紹介されました。



臨床検査科『ホルター心電図解析』

当院、臨床検査科では院内は元より、小樽市内の診療所・後志管内の病院、遠くは胆振地域の病院様からも受託を受け月に 60~70 件ほどのホルター解析を行っています。当院には認定心電検査技師そして循環器科の常勤医師 5 名が在籍しており、難しい症例や稀少症例に遭遇した場合でも直ぐに助言を貰える環境が整っています。時には数秒間の心停止や危険な不整脈がみられる場合もあり、院内・院外問わずにすぐに報告するシステムをとっております。日本光電社製のレコーダーで記録されたデータであれば当院で解析が出来ますので、解析でお困りの際には、お気軽にお問い合わせ頂ければ幸いです

臨床検査科はこれからも小樽・後志の循環器診療の一翼を担えるように努力してまいります。



レスパイト入院のご案内

レスパイトケア入院とは

レスパイト(respite)は休息・息抜きという意味で、治療のためではなく医療的な管理や処置が必要な方などの包括ケア病棟での短期滞在です。数日～最大 60 日までの入院が可能です。(再入院の場合は、退院3か月後に利用が可能です)



- ご利用対象

介護者の急な入院・介護疲れ等一時的なショートステイをお探しの方、医療的な問題でショートステイ施設の利用が難しい方など

- レスパイト入院の申し込み方法

1. HP から診療情報提供書、小樽協会病院地域包括病棟申込書をダウンロードしてください。※診療情報提供書は貴院書式で可能です。
2. 記載した「診療情報提供書」、「小樽協会病院地域包括病棟申込書」を小樽協会病院地域医療福祉連携室に FAX してください。

小樽協会病院地域医療福祉連携室 FAX 番号 0134-21-5718

※再入院の場合は、退院 3 か月後に利用が可能となります。

- 本院のレスパイト入院の利点

入院期間は、包括ケア病棟に入院して頂きますので数日～最大 60 日までの入院が可能です。又、病状の変化等医療が必要となった場合は、治療入院に切り替えますので、安心して療養していただけます。

医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカーなどの院内職種がケアマネージャーと連携し自宅に戻られるまで総合的にサポートします。お気軽にお問い合わせください

提携駐車場のご案内

平成 28 年 11 月 1 日（火）より、小樽協会病院駐車場入り口向いにあります『小樽市立病院駐車場』を、当院受診患者様も利用できるようになっています。

【ご利用料金】

外来受診患者様	12 時間まで 100 円：以降 1 時間 100 円
お見舞い者	2 時間まで 100 円：以降 1 時間 100 円
一般の方	30 分につき 300 円



※ご利用の際は必ず「1 階会計窓口・受付窓口」に駐車券を提出し証印を受けて下さい。

20 時 00 分～翌 8 時 30 分は、地下 1 階守衛室にてお願いします。

(証印を受けなければ上記金額の適用を受けられません)

無料・低額診療事業のお知らせ

小樽協会病院では「無料・低額診療事業」を行っています。無料・低額診療事業とは、外来や入院でかかる医療費の支払いが困難な場合、医療費を無料または低額にすることができる事業です。「病院を受診したいが、医療費が払えないので受診できない」「抗がん剤治療を受けたいが治療費が高すぎて受けられない」「入院で仕事ができなくなり、収入がなくなってしまった」などお金のことが心配で、より良い医療が受けられないことが無いように、社会福祉法2条第3項に基づいて行っています



[対象になる可能性のある方]

1. 低所得者または低所得世帯で、医療費の支払いに困っている方
2. 病気や障害などで収入がなくなり困っている方
3. リストラや失業のため一時的に収入がなくなり困っている方
4. 医療費の支払いをすると生活が困難になる方
5. その他（ホームレスの方、破産者、外国人、DV 被害者など）

手続きのしかた

地域医療福祉連携室（医療相談）の医療ソーシャルワーカーまでご相談下さい。医療ソーシャルワーカーが治療内容や身体状況・生活や収入の状況などを伺い、公的な制度の利用を含めてご相談させていただきます。それでも解決が難しい場合は、無料・低額診療の申請を行います。申請に際して、経済状況のわかるもの（給与明細・所得証明・通帳など）、ご印鑑が必要になりますがプライバシーは厳守致しますのでご安心下さい。

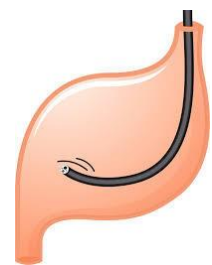


小樽市の胃がん検診委託医療機関になりました

当院は平成30年度より小樽市の胃がん検診で内視鏡の委託医療機関になりました。当院での内視鏡検査は経口、経鼻とも選択が可能です。対象の患者様がおられましたらご紹介をお願いいたします。

小樽市胃がん検診内視鏡検査の対象となる方

- ・ 50歳以上であり、かつ誕生日を迎えて偶数年齢になる（予定）の小樽市在住の方
- ・ 本年度に小樽市の胃がん検診（バリウム検査）を受診していない方
- ・ 勤務先や加入する健康保険で、胃がん検診を受ける機会のない方



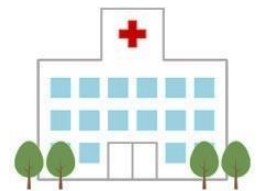
当院の医療安全管理室での取り組み

医療安全管理室長補佐 大塚裕仁

現在、小樽市内では多くの医療機関が医療安全加算を取得しています。当院では医療安全管理加算Ⅰを取得しており2名のGRM（ゼネラルリスクマネジャー）が医療安全管理室で働いております。我々の仕事は報告されたインシデントやアクシデントの調査、そして対策が必要なものには現場のリスクマネジャーと協力して対策を立案し実行していきます。職場では毎日、種々の問題が発生しています。その中には、もし放置されていけば重大な結果をもたらす可能性があるものもあり、職場の管理者がその対策に頭を悩ませることも多いと思います。そのようなことがあった場合の対策、つまり業務の改善を手助けすることが医療安全管理室の仕事の大きな柱であると考えています。市中の医療機関の医療安全管理者には、一人で働いている担当者も少なくありません。問題発生時に一人で悩むことは非常にストレスになり、もし施設内で理解を得られていない医療安全管理者がいたとすれば、毎日つらい思いをしていることは想像に難くありません。



小樽・後志地区の医療機関の間ではJ・Sネットワークという医療安全管理者間での情報交換と共有のための仕組みがあります。数年前に小樽市内の医療安全管理者の方々が立ち上げましたが、事例の対策立案に知恵を借りたり、一緒に勉強をしたり、講演会を企画したり今後の更なる活動の活発化が期待されます。今年度の診療報酬改定に於いて「医療安全に関する地域連携加算」が新設されました。これは「地域の医療安全は地域で守る」「医師を含めた全職種が医療安全に積極的に関わる」ことを目指して新設されたと厚労省医政局の方の講演でお聞きしました。



厚労省は医療安全推進を加速しています。現在の診療報酬体制では“加算”となっている要件もじきに普通の診療報酬に取り込まれていくのだろうと思われ、しっかりとした医療安全体制の早期構築の必要性を強く感じます。私ども北海道社会事業協会には7つの病院と1つの老健施設があり、8施設での強固な連携によるしっかりとした医療安全体制を築き上げつつあります。

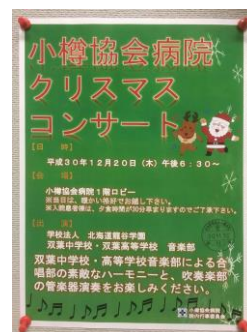
今年度で開催された講演会のいくつかでは「医療事故調査制度」が取り上げられていました。医療事故調査制度は2015年10月に施行された改訂医療法の一部であることは公知のことです。来年度、2年に一度の改訂を迎えます。色々と問題はありますがしっかりと医療事故再発防止に医療界全体として取り組まなければ、国民の厳しい期待には応えられず、医療界にとって厳しい改訂になることが予測されると訴えている先生もおられました。

医療安全管理室の仕事のもう一つに医療事故に関する患者、患者家族からの相談業務があります。当院の医療安全管理室には患者や患者家族から相談のみならず、患者とのトラブルに悩む職員からの相談も持ち込まれます。当院での患者相談の窓口は3つあり、その内容によって地域医療福祉連携室、医事課、医療安全管理室が対応をします。複雑な案件は1つの部署だけでは対応をせず、複数部署が相談をしながら進め、患者や患者家族が何を望んでいるのか、病院職員は何を望んでいてどうしたいのかをしっかりと聞き取り、情報や認識の齟齬を取り除くように努めています。

これは職員が気持ちよく安心して働ける職場を作り、そして患者が安心して医療を受けることが出来る環境を作るためと考えています。医療安全の根幹は患者と職員を守るための環境づくりだと考えます。地域で連携しながらこれからも安全で安心な医療の提供のために努力していきたいと思えます。

恒例のクリスマスコンサートが開催されました

毎年恒例の院内クリスマスコンサート、今年は12月20日に双葉高等学校音楽部の皆さんをお迎えして開催されました。西城秀樹のヤングマンやクリスマスソングの演奏に会場に集まった患者様やそのご家族の方々より大きな手拍子が起こり、盛り上がりました。短い時間でしたが、患者様や当院スタッフを癒し元気をくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。



編集後記

今年は雪が少ないのかと思いきや、やはり大雪や何年振りかの寒気に覆われ例年になく寒さが身に凍みます。インフルエンザも猛威を振るいマスクが手放せない毎日です。早く流行が終息する事を願うばかりです。

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.57

発行：小樽協会病院編集委員会
発行日：平成31年2月
発行人：柿木 滋夫
編集委員長：渡辺 直輝